

戦略的イノベーション創造プログラム（SIP）/第3期スマートモビリティプラットフォームの構築

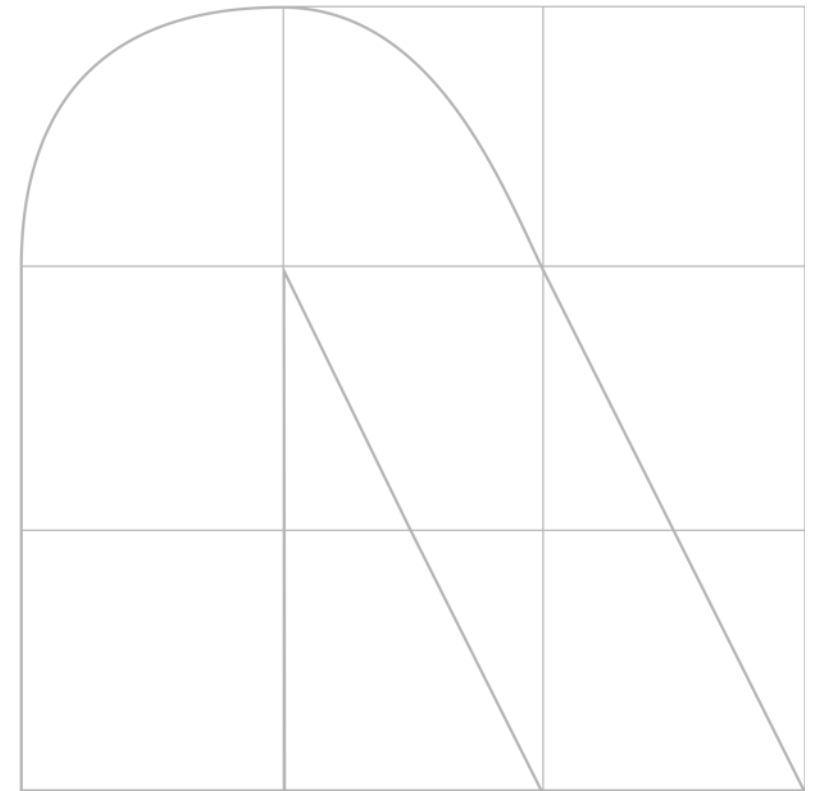
「人と情報をつなげるThe Japan Mobility Dataspace を活用したスマートモビリティ社会の実現」 成果報告書

2026年4月24日
株式会社NTTデータ

目次

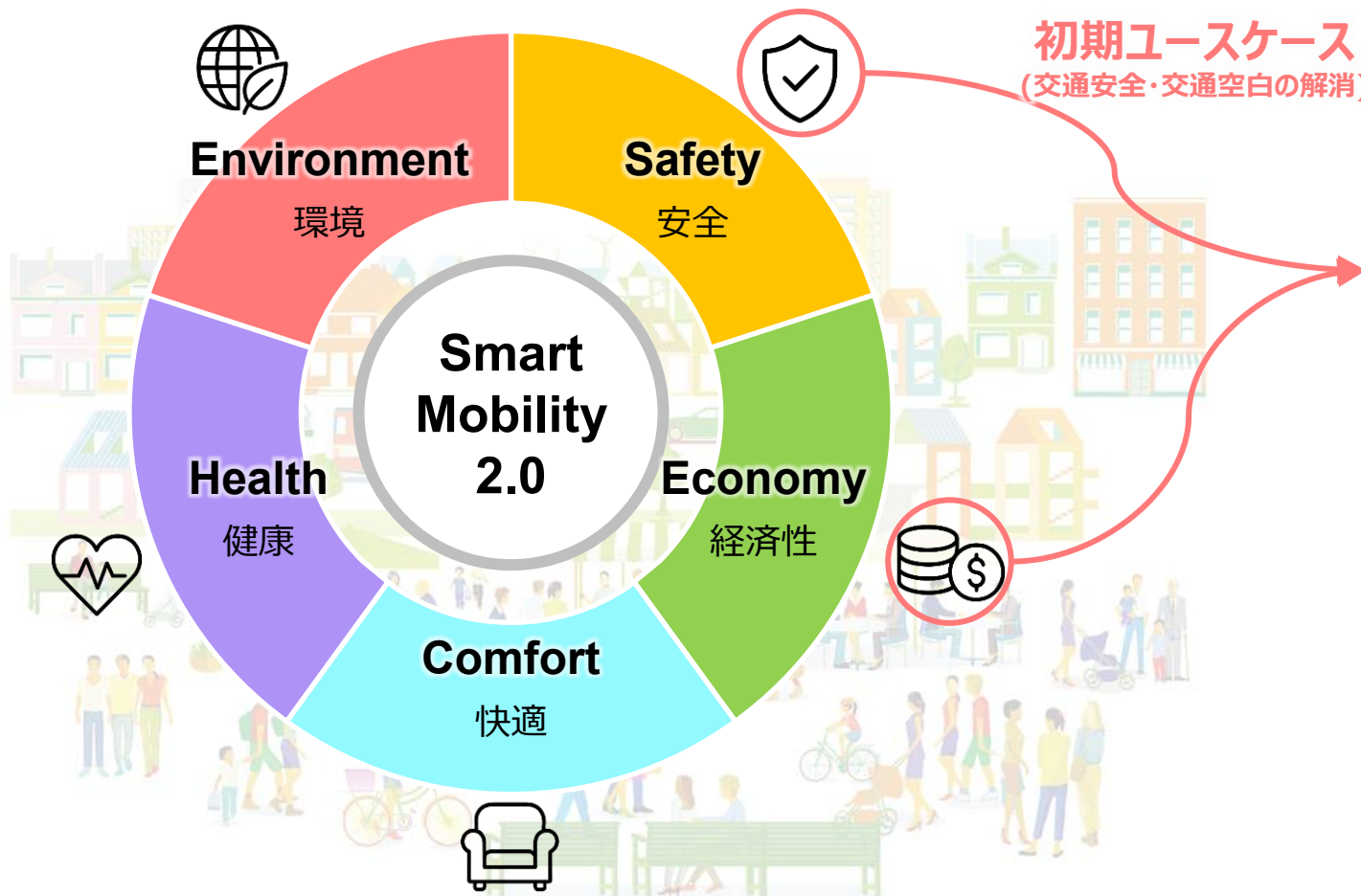
- 1. 事業概要（3～10p）
- 2. 事業内容（11p～）
 - 2.1 普及促進（12p～14p）
 - 2.2 JMDS開発（15p～20p）
 - 2.3 ユースケース① 地域交通（21p～23p）
 - 2.4 ユースケース② 交通安全（24p～26p）
 - 2.5 ユースケース③ 観光×地域交通（27p～32p）
- 3. 今年度成果物（33p～35p）

1. 事業概要



(1) プロジェクトの目指す姿

- 快適な移動によるWell-beingな社会の実現に向け、Japan Mobility Data Space（以下、JMDS）を基盤としたモビリティ関連データの活用により、地域・エリアの移動課題解決に取り組んでいる。



初期ユースケース
(交通安全・交通空白の解消)

1

計画

データ連携基盤による現状把握の効率化

2

導入/
実行

モビリティ事業者向けマイクロサービスの提供

3

評価/
改善

取得データ×統計データで施策効果を把握

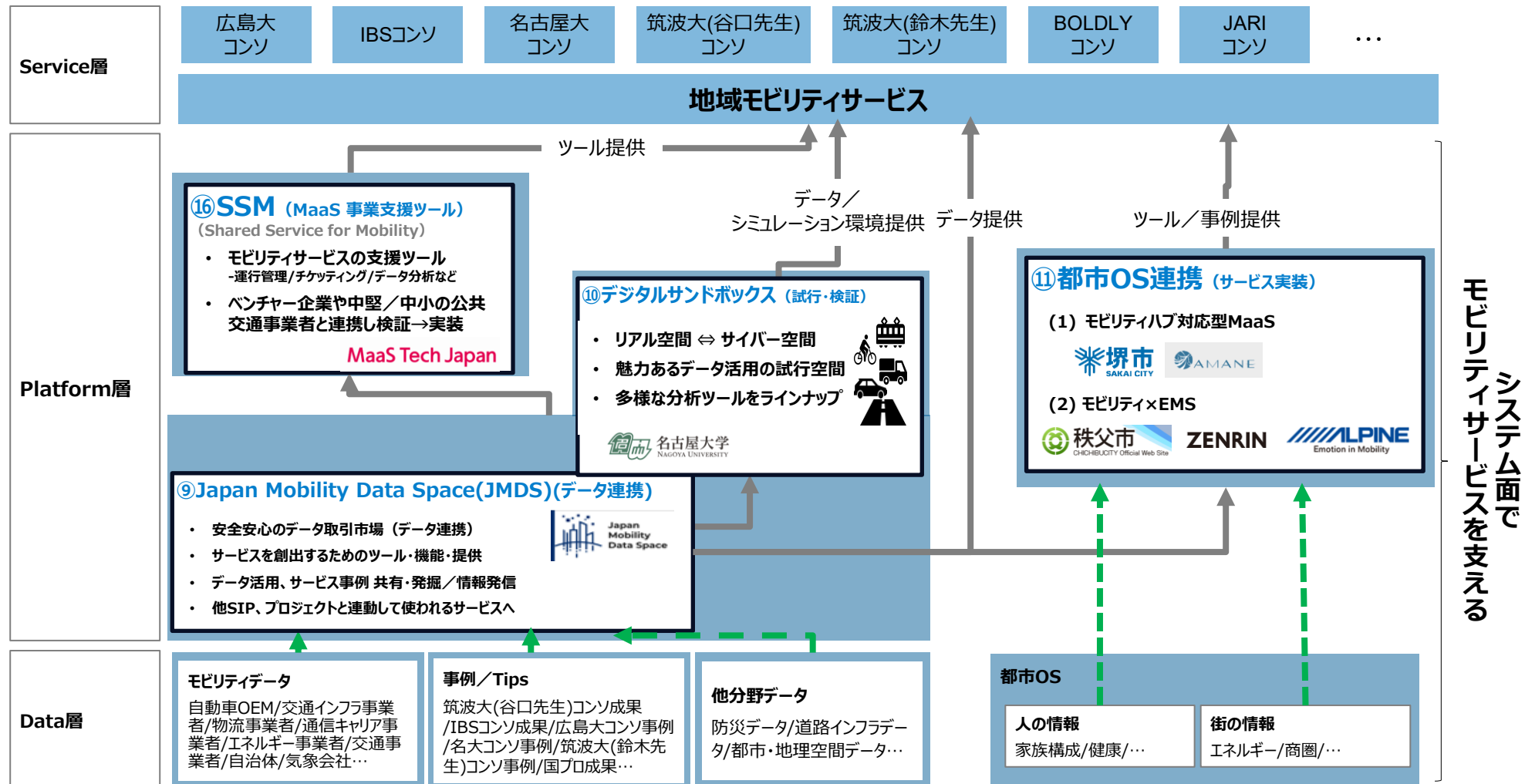
4

横
展
開

ユースケースの事例カタログ化による他地域への普及

(2) プロジェクト全体像・体制

- 本プロジェクトにおいては、(テーマ⑨)「Japan Mobility Data Space」を中核とし、(テーマ⑩)データ基盤を活用したシミュレーションや(テーマ⑪)都市OSと連携した各種サービス、(テーマ⑫)SSMを構築、実装することで、多様なモビリティサービスの創出を促進する。



(3) 研究開発項目全体における5か年の計画

ビジョン

- **Smart Mobility 2.0**（自由に自立して安全・快適に、環境・人・まちに優しく、多様な人・モノ・サービスが移動できるモビリティディバイドない社会）の実現
- Smart Mobility 2.0を実現するため、**Japan Mobility Data Space**を基盤としたデータ活用により、**地域・エリアの移動課題を解決**

	プロセス	サービス開発	実証実験・評価	サービス利用の仕組みづくり
FY2023	要件定義	成果目標、研究開発計画の具体化		
FY2024	実証準備	実証に向けた研究開発・実証計画の具体化		
FY2025	実証・評価	価値向上に向けたサービス開発の推進 ・JMDS機能拡充（認証基盤、API提供） ・デジタルサンドボックス機能追加（可視化ツール開発） ・SSMサービス（β版）開発	実証実験実施・評価の完了 ・SSMを活用した機能実証（洲本市） ・地域でのモビリティサービス実証（秩父市）	サービス利用者・連携の拡大【仕組み面】 ・データPFとの連携10件以上【利用・普及面】 ・自治体実証／事例創出
FY2026	社会実装に向けた準備	実証評価に伴うサービス改良	実践的な実証実験の企画・準備	社会実装を見据えた枠組みづくりの完了
FY2027	社会実装	サービス運用開始	社会実装を見据えたビジネス設計 サービス実装に向けたステークホルダとの調整・交渉	社会実装準備完了

(4) SIP第3期中間時点のKPI

■ SIP第3期の中間時点KPIは、各研究開発項目において全項目達成となった。

研究開発テーマ	SIP第3期中間時点のKPI	達成状況	結果
テーマ⑨ 多種多様なモビリティプラットフォーム/関連データの統合・相互利活用基盤の構築、実証	Japan Mobility Data Space（パイロットシステム段階）のデータ多様性（10以上のデータPFを連携、多種多様なデータ※[1]を各1種類以上含む）	達成	• 多種多様なデータを含むデータPFと連携し、14データPFと連携済。
	Japan Mobility Data Spaceの第1版技術仕様書が完成	達成	• JMDS第1版技術仕様書を策定。
	モビリティ支援技術開発・技術評価の完了	達成	• 2024年度、JMDSプロトタイプおよびデジタルサンドボックスとの連携を実施し、一般公開および利用者による評価を実施。
テーマ⑩ 安全・快適・豊かなモビリティの実現のための、サイバーフィジカル型道路空間デジタルシステム基盤(デジタルサンドボックス)の構築	デジタルサンドボックスを使ったモビリティシステムの評価事例数3件以上	達成	• デジタルサンドボックスと連携したLIPT-Sim、可視化ツールおよびデジタルサンドボックス基盤としての評価を行い、3件以上の評価事例を達成。
	Japan Mobility Data Spaceとデジタルサンドボックスが連携している	達成	• JMDSと連携し、デジタルサンドボックス上に名古屋大学コンソーシアムのLIPT-Simを搭載し、一般公開を実施済。
	デジタルサンドボックスへの参加事業者数8件以上	達成	• デジタルサンドボックスとの連携や、業務内評価のための利用などを踏まえ、参加事業者数11件を達成。
	モビリティ支援技術開発・技術評価の完了	達成	• デジタルサンドボックス上に名古屋大学コンソーシアムのLIPT-Simを搭載し、一般公開および利用者による評価を実施済。 • また、今年度は可視化ツールを開発し、一部事業者から評価を実施。
テーマ⑪ 都市OS上のモビリティ対応サービスの開発	モビリティ支援技術開発・技術評価の完了	達成	• 埼玉県秩父市において、新モビリティの導入に向けたデータ分析から、導入、エリアでの実証および評価を実施。
テーマ⑫ スタートアップ等の事業者間のモビリティデータシェア・共有が可能な基盤となるSSM(Shared Service for Mobility)の構築	SSM初期システム(第1版)が完成	達成	• 交通事業者など、想定利用者からニーズの高い運行計画、運行調整機能を含んだSSMの初期システム（第1版）を開発。

※[1] 多種多様なデータ：旅客交通の運行データ、物流の運行データ、街路などの歩行空間を含む道路や路線などのインフラデータ、歩行者・乗客データ、スマートシティデータ、地理空間データ、SIP第3期の他の事業のデータ、産・官・学データを指す。

NTT DATA

(4) 2025年度の注力テーマ

- 本研究開発の中核となるJMDSの**普及促進**と**JMDS開発**を進めつつ、2025年度はJMDSを活用したユースケースを創出するため、**地域交通／交通安全／観光×地域交通**の3テーマに注力し、地域が抱える課題解決に向けた具体的な成果創出を目指す。

1 地域交通

地域一体型の仕組みにより、バスや鉄道などの地域交通の維持・運用を支援するとともに、交通空白地などにはオンデマンド交通などの代替手段を検討。**地域の特性や課題に応じた持続可能なモビリティの構築**を目指す。



2 交通安全

車両の移動データや交通シミュレーションなどを活用し、道路管理者による危険箇所の特定制や細街路の整備計画を後押しする。加えて、景観や快適性にも配慮した道路の再設計を通じ、**交通安全と地域価値の向上を両立**させる。



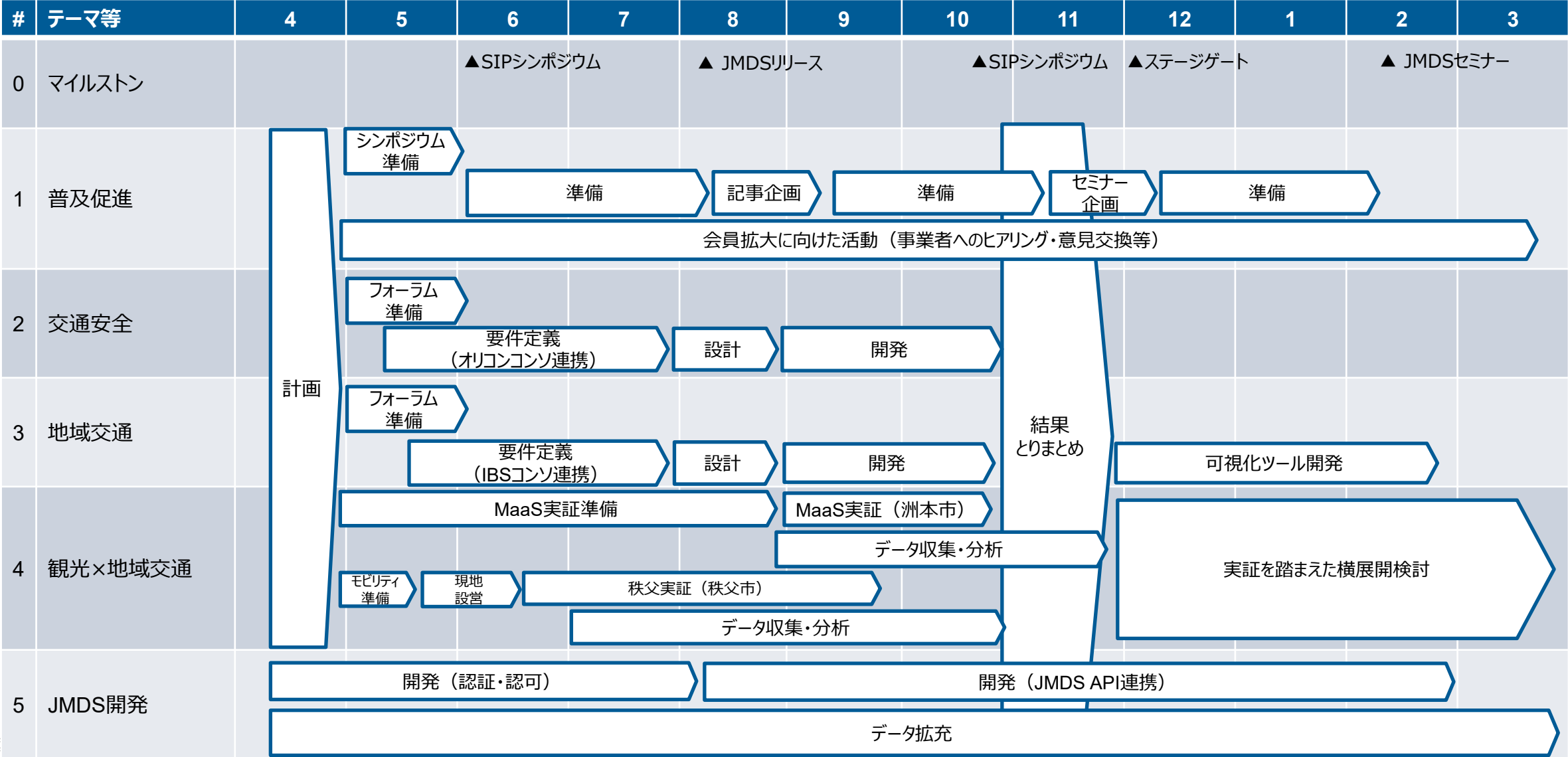
3 観光×地域交通

観光地における移動手段不足を補完し、観光客のスムーズな周遊を促進。生活交通との分離や観光公害への配慮を通じて、地域住民との共存を図りながら、**地域消費の拡大と移動資源の最適化を実現**する。



(5) プロジェクトの全体スケジュール

■ 2025年度におけるスケジュールは以下の通り。



(6) 2025年度の主な成果

- JMDSは、**地域交通計画や交通安全に資する計画策定に必要なデータカタログの整備、API機能の追加、ならびにデータスペースとして必要となる認証基盤整備や機能改善**により、データ利活用の基盤および機能を拡充。また、**交通状況を可視化するツール開発**を進めた。
- **洲本市・秩父市の実証で運用・評価の実績を獲得し、自治体ヒアリングを通じて横展開に向けた導入条件・ニーズを把握した。**
- さらに、**地域交通計画/交通安全計画に必要なデータ連携**を開始するとともに、JMDSのユーザとして**64企業・団体を獲得、14プラットフォームとの連携、データカタログ件数は2万1000件を超え、データスペースとしてさらに利用・連携の拡大に寄与した。**

成果トピック

サービス開発

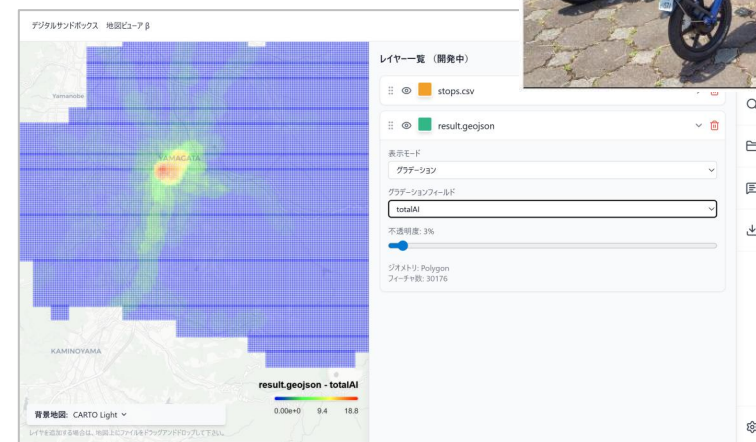
- ・ **オープンデータを中心に、データカタログ連携を実施**するとともに、**認証基盤整備、機能改善、API機能追加**を行い、利用者がデータを扱うための基盤および機能を拡充。
- ・ JMDS上のデータを活用し、**地域の交通状況を可視化するためのツール**を開発。

実証実験の企画・準備

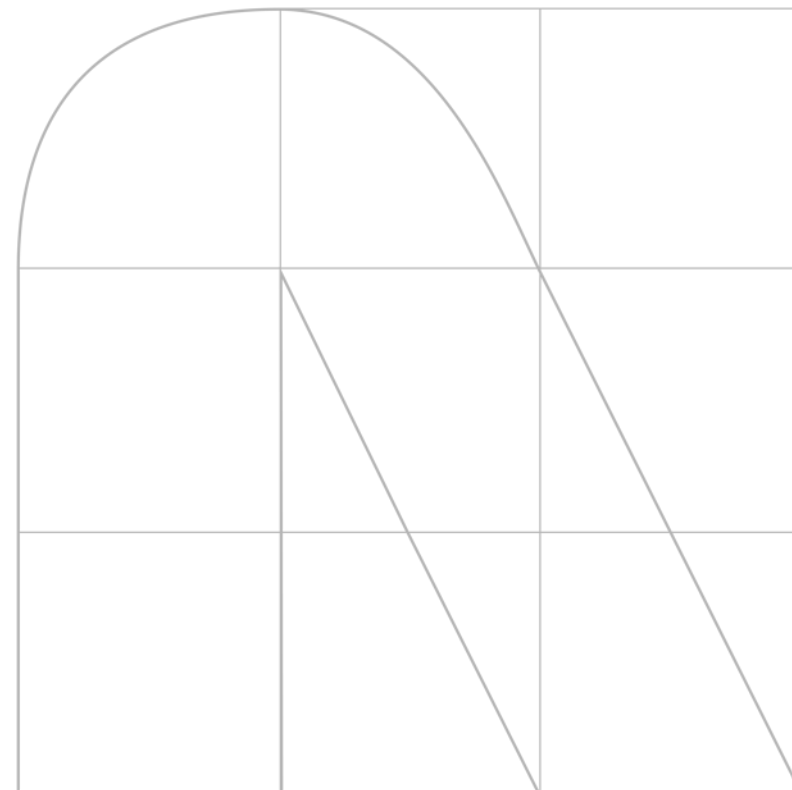
- ・ **SSM機能を活用し、2025年10月に洲本市での実証**を実施。実サービス環境での運用・評価の実績を獲得。
- ・ **2025年5月から9月にかけて、秩父市でENNEを使った実証**を実施。地域の利用・評価の実績を獲得。
- ・ 他地域への**横展開に向けた自治体ヒアリング**を実施し、導入条件・ニーズを把握して横展開検討の材料を獲得。

サービス利用の仕組みづくり

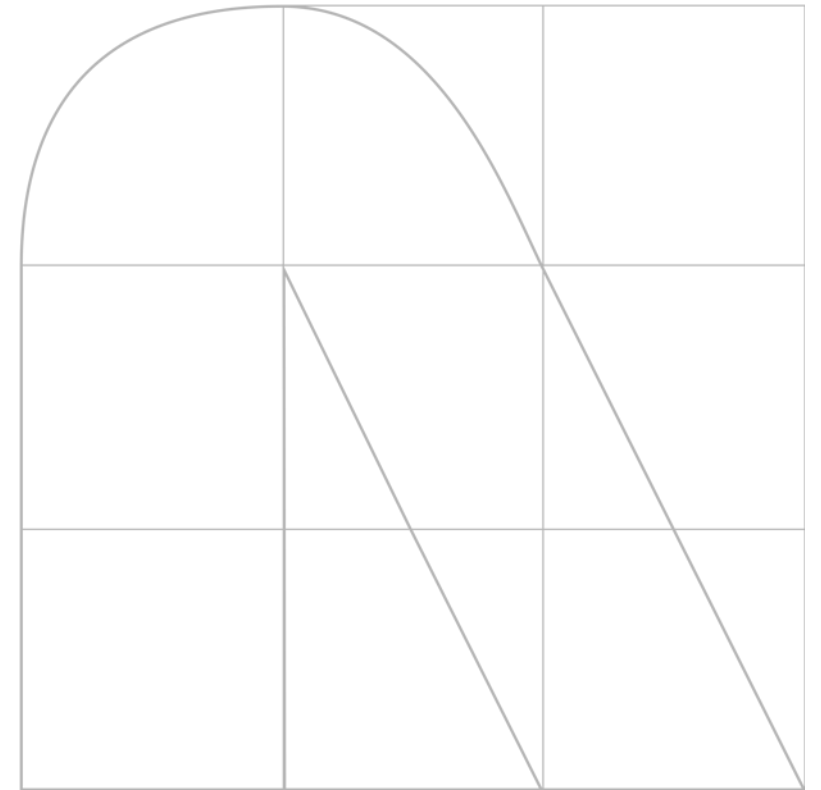
- ・ 地域交通計画策定に必要なデータとの連携を開始。
- ・ **DRMをはじめとした、交通安全に資する計画策定に必要なデータ**との連携を開始。
- ・ JMDSの利用者として、**64ユーザ（企業・団体）**を獲得。
- ・ 2026年3月時点で**2万1000件以上のデータカタログを掲載**。



2. 実施内容



2.1 普及促進



(1) Summary

目指す姿

- 分散したデータを連携させ、データを活用するヒトとサービスをつなぐ**分散連邦型データ連携基盤「Japan Mobility Data Space」を構築**し、モビリティサービスの品質・効率性向上、イノベーションを促進。

2025年度の計画

- 利用ユーザ拡大に向けた事業者との意見交換の継続および参画促進。
- セミナー・シンポジウム・記事発信等のプロモーション活動を通じた認知拡大を実施。

主な成果

- **JMDS会員拡大**
 - ・ JMDSのユーザとして**64企業・団体を獲得。14プラットフォームとの連携、データカタログ件数は2万1000件を超え、データスペースとしてさらに利用・連携の拡大に寄与。**
- **プロモーション活動(セミナー/シンポジウム/記事発信等)**
 - ・ **自社開催セミナーを中心に計10回のセミナー(外部登壇を含む)を実施**し、JMDSの取組内容や活用可能性を継続的に発信した。
 - ・ モビリティ業界に関連する企業・団体対し、JMDSの認知を高めるため、モビリティ業界において、多くの会員やPV数を持つ媒体**LIGAREを採用、JMDSに関する記事の発信を実施。**

今後の方針・展望

- ハッカソンなどの実施による継続的なJMDSの認知拡大および業界内でのポジション確立
- JMDS準備組織の設立準備

(2) 普及促進 成果

- モビリティ業界におけるJMDSの認知拡大や参画・利用企業/団体の獲得に向け、**自社開催セミナーを含む計10回のセミナー**（外部登壇を含む）や、モビリティ業界向けの媒体を活用し、**JMDSを活用したユースケースに関する記事を発信し、JMDSの認知を拡大。**
- その結果、**企業・団体のユーザ利用登録は64社/団体、データカタログ件数は2万1000件を超え、JMDSの認知や利用の拡大に寄与。**

第2回公開シンポジウム2025



自社開催セミナーの様子

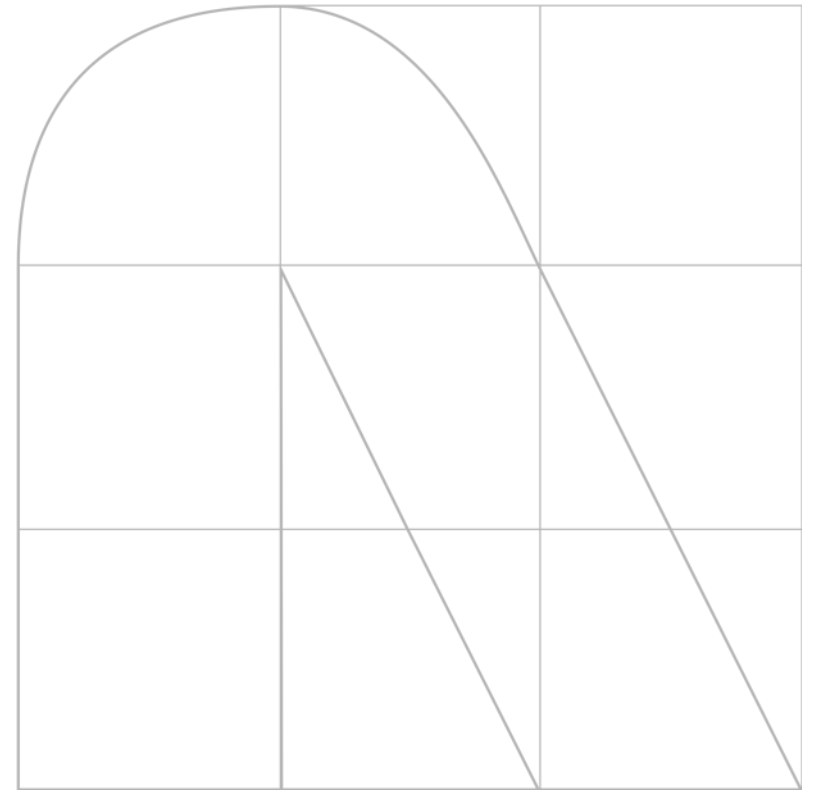


JMDS特集記事



<https://ligare.news/story/jmfs-1125/>

2.2 JMDS開発



(1) Summary

目指す姿

- 分散したデータを連携させ、データを活用するヒトとサービスをつなぐ**分散連邦型データ連携基盤「Japan Mobility Data Space」を構築**し、モビリティサービスの品質・効率性向上、イノベーションを促進。

2025年度の計画

- 地域交通計画や交通安全に資する計画策定に必要なデータを中心とした、外部データPFとのデータ連携を確立。
- ユースケース実証で利用可能なデータ提供基盤を整備する。
- データの確認・利用を促進するための認証認可基盤、可視化ツールを整備・開発する。

主な成果

- **データカタログ連携**
 - ・ **地域交通計画や交通安全の計画策定に必要なデータを中心に、JMDS上のデータカタログ掲載を拡充し、カタログ経由で把握・探索できるデータ範囲を拡大。**
- **API機能の開発(必要データを、外部システム/ツールから検索・取得)**
 - ・ **外部システム/ツールからJMDS上データを検索・取得できるAPI連携**を整備し、カタログだけでなく、実データを簡易に取得できる手段を提供。
- **可視化ツールの開発**
 - ・ これまでの自治体や建設コンサル等の課題・ニーズを踏まえ、**地域交通計画策定等の支援を見据え、オープンデータを中心に、データの可視化や、可視化結果に対し、AIでの示唆だしが可能な可視化ツールのβ版を開発。**
 - ・ また、β版を一部ユーザに活用していただき、フィードバックを踏まえ、今後の改修要件を洗い出した。

今後の方針・展望

- マーケットプレイス（β版）などのサービス提供による、データ流通基盤の確立
- 想定利用者と連携した実証実験実施や、普及活動と連携した対外的なアピールによるモビリティ業界でのデータ流通基盤としてのポジション確立

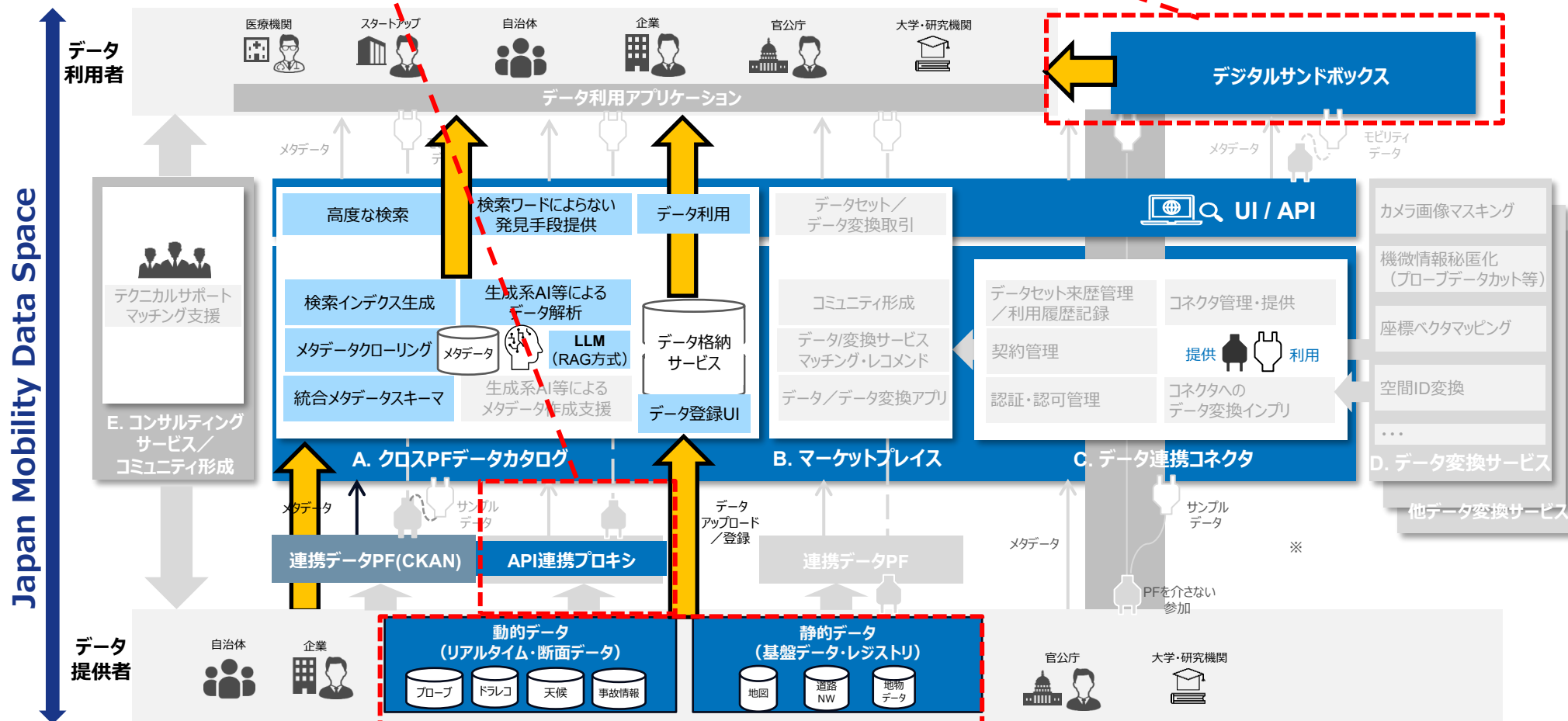
(2) JMDS 今年度の開発スコープ

1. データカタログ拡充およびAPI整備

- 地域交通計画の策定や道路の危険箇所把握などに必要となるデータを中心に、データカタログ連携を推進
- JMDSと連携したデータの検索・取得を可能とするAPIを整備

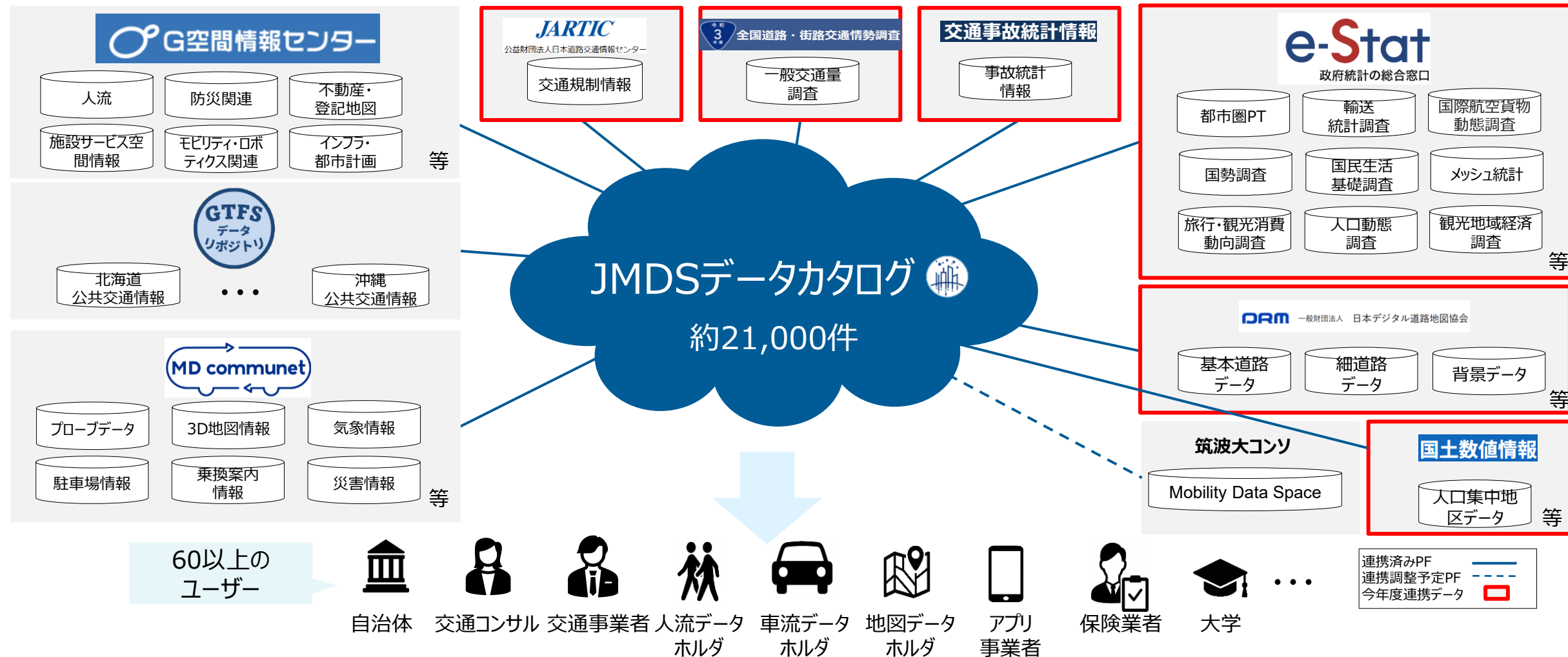
2. デジタルサンドボックス連携

- 地域交通計画の策定や道路の危険箇所把握などに必要となるデータの取得から加工、可視化・分析を一気通貫で行える仕組みを検討
- JMDSのAPIを活用し、データの検索から可視化が可能となる可視化ツールを開発



(3) JMDS開発 成果(データカタログ連携、API機能開発)

- JMDSに搭載予定のツールで必要なデータやオープンデータを中心にデータカタログ連携と、認証基盤やAPI機能の開発・拡充を進めた。



(3) JMDS開発 成果(データカタログ連携、API機能開発)

- JMDSが連携するデータのデータセット詳細情報（メタ情報）をAPIで取得できるようにしたデータセット検索APIを開発。
- 本APIは利用者として交通分析ツールなどの開発者を想定し、ツールへ直接データ情報を連携できる仕組みを提供することで、ツール上での継続的なデータ取得を可能にし、開発・運用の効率化に寄与することを目的としている。

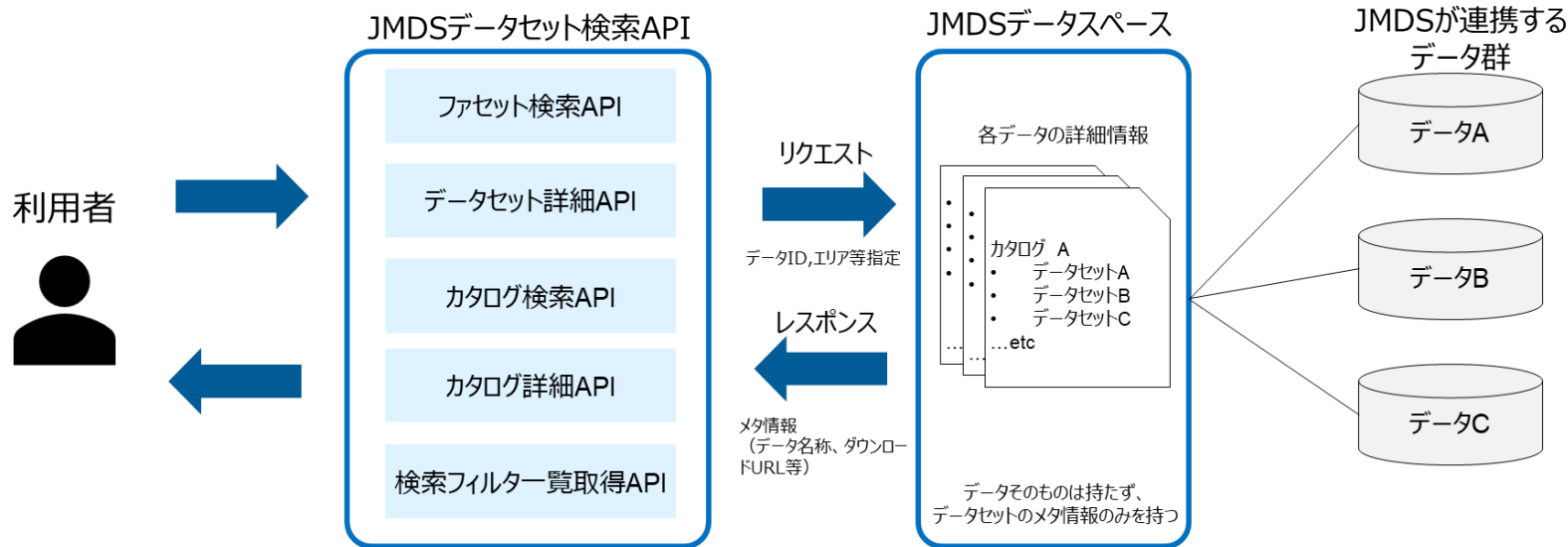
JMDSのデータセット検索APIで「2025年9月 交通規制情報 愛媛県」にあたるデータセットID※（赤線）を叩く
※データセットIDはJMDS内部で定義したID

リクエスト例

```
curl -X 'GET' 'https://~~~~/mobility-data-space.jp/api/datasets/dataset.74'  
-H 'accept: application/json'
```

レスポンス例

```
{  
  "success": true,  
  ~~~  
  "content": {  
    "info_id": "dataset.74",  
    "catalogInfoId": "e6299621-e8cd-4821-ba75-5e79500853bf",  
    "title": "交通規制情報_愛媛県_202509",  
    "description": "各都道府県警察が保有する交通規制データベースに入力された交通規制情報を交通規制に係る拡張版標準フォーマットに合わせて変換した情報です。~~",  
    "downloadURL":  
      "https://www.jartic.or.jp/d/opendata/202509010956/typeD_ehime.zip",  
    "jmDSDataSpace": "JARTIC",  
    "accessURL": "https://www.jartic.or.jp/service/opendata/",  
    "spatial": ["愛媛県"],  
    "prefectureCode": ["38"],  
    ~~~  
    "collectionYear": ["2025"],  
    "publisher": ["JARTIC"],  
    ~~~  
  }  
}
```



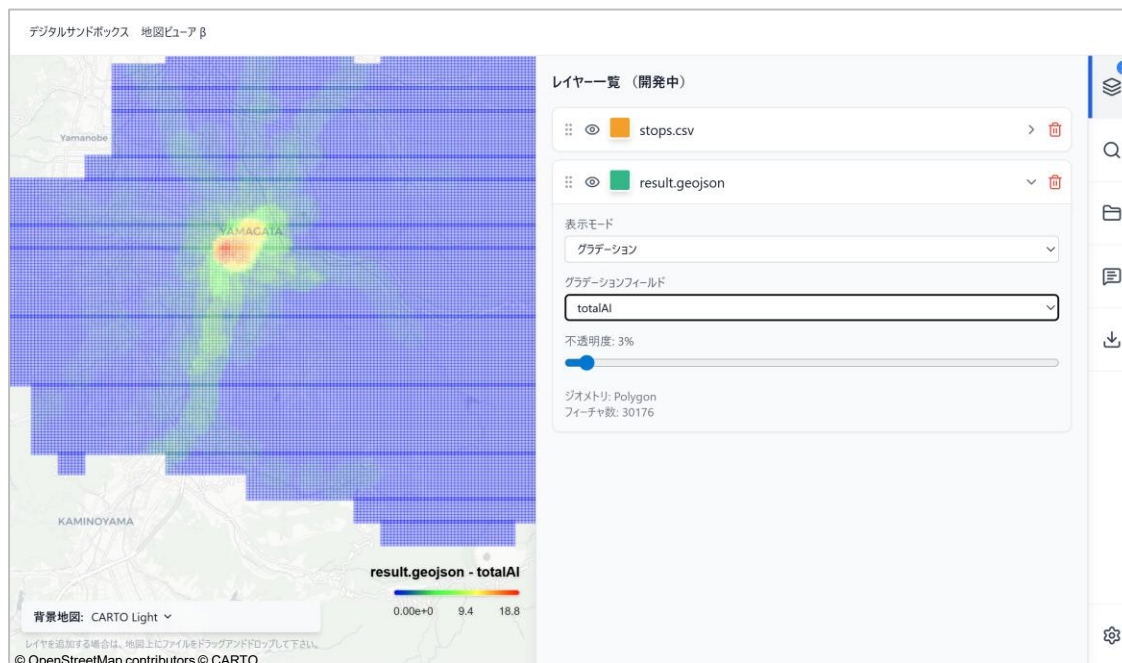
JMDSより対象データセットのタイトル、ダウンロードURL（黄緑色箇所）、データのエリア、データセット保有者の情報等が取得される

(3) JMDS開発 成果(可視化ツール)

- JMDSと連携するデータやファイルアップロードした独自データを地図上で統合表示し、ユーザ側でレイヤー操作可能な可視化ツールを開発。将来的には、デジタルサンドボックスのシミュレーション結果も統合表示できる機能やAI分析機能、ブラウザ共有機能などを具備する予定である。
- 以下の図に、プロトタイプとして開発した可視化ツール画面の一例を示す。

レイヤー画面

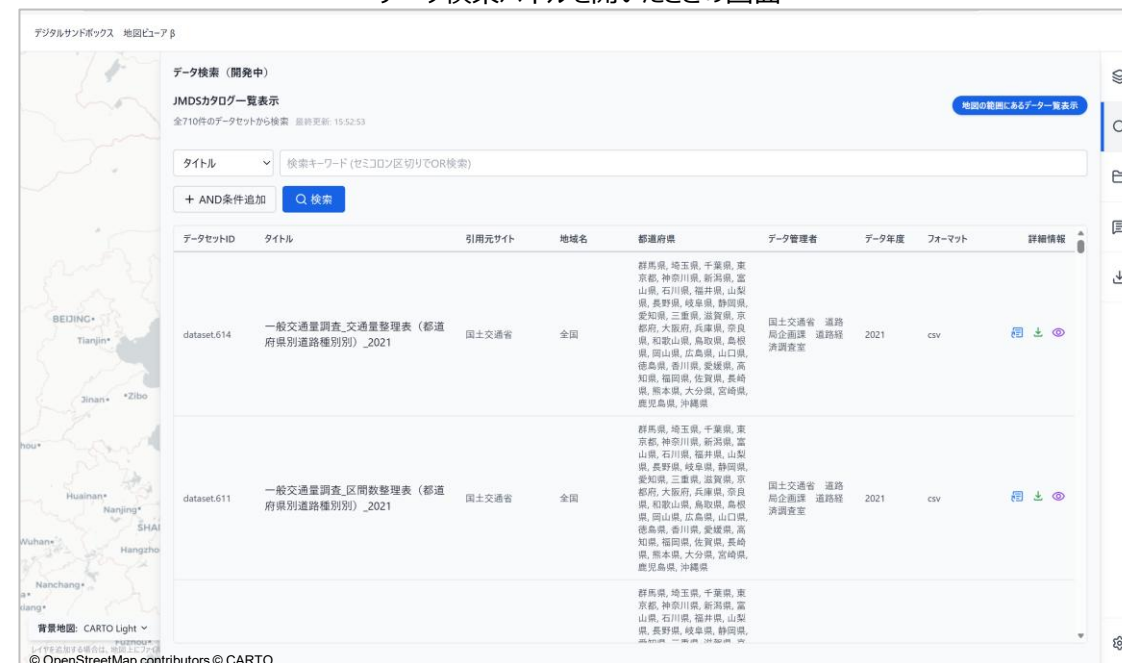
LIPT-simの結果をファイルアップロードした時の可視化結果



・ファイルアップロードやレイヤーの色、重畳の順番などをユーザー側で実施できるUIを具備

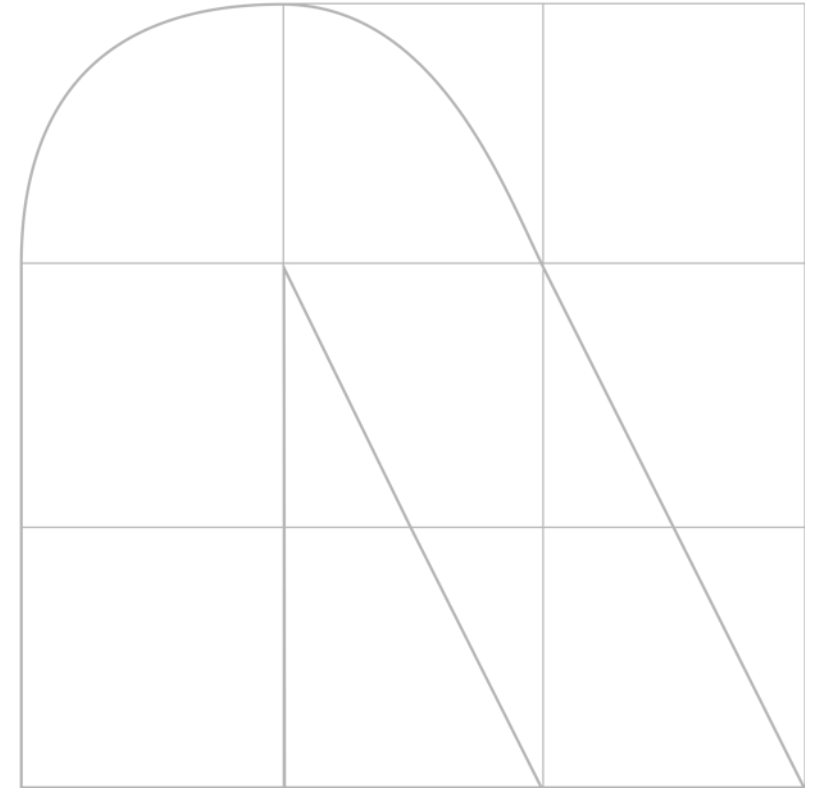
JMDS連携データ画面

データ検索パネルを開いたときの画面



・JMDSで連携するデータ一覧を表示し、さらにそこから見たいデータの地図描画が可能な機能を具備（データの形式や項目により描画できない場合もある）

2.3 ユースケース① 地域交通



(1) Summary

目指す姿

- 地域一体型の仕組みにより、バスや鉄道などの地域交通の維持・運用を支援するとともに、交通空白地などにはオンデマンド交通などの代替手段を検討。**地域の特性や課題に応じた持続可能なモビリティの構築**を目指す。

2025年度の計画

- 計量計画研究所コンソーシアムと連携しながら、地域交通計画等の策定において、必要なデータの整備を実施。

主な成果

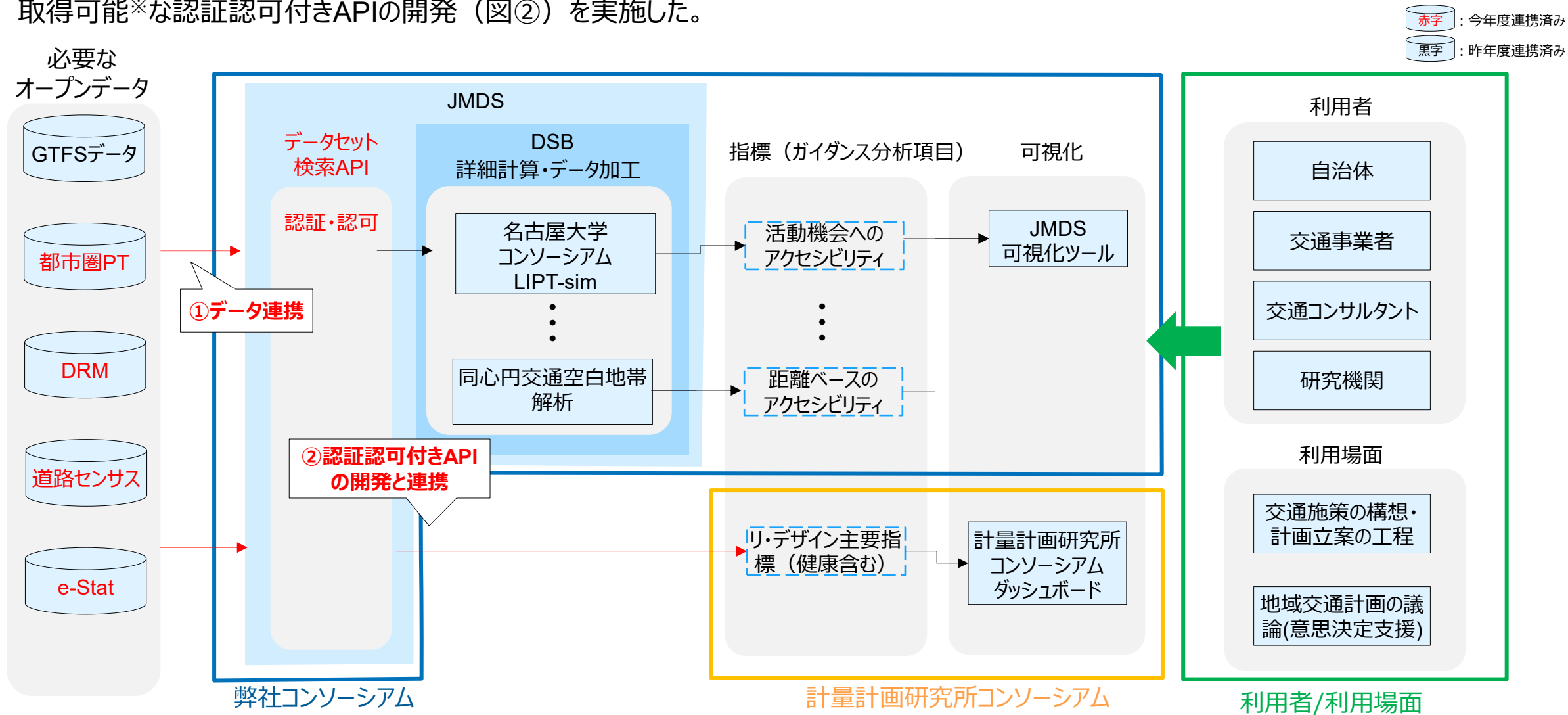
- **地域交通計画策定に必要なデータ提供・API連携を推進**
 - **地域交通計画の策定で必要となるデータについて、関係機関との連携に向けた調整を進め、提供・連携の枠組み作りを推進。**
 - あわせて、対象データを追加して利用可能範囲を拡大し、オープンデータを**外部システム/ツールから検索・取得できるAPI機能の提供を開始。**

今後の方針・展望

- 地域交通計画策定に必要なデータとの継続的な交渉、連携確立
- 各コンソと連携し、地域交通計画策定支援が可能となる技術的な基盤の確立

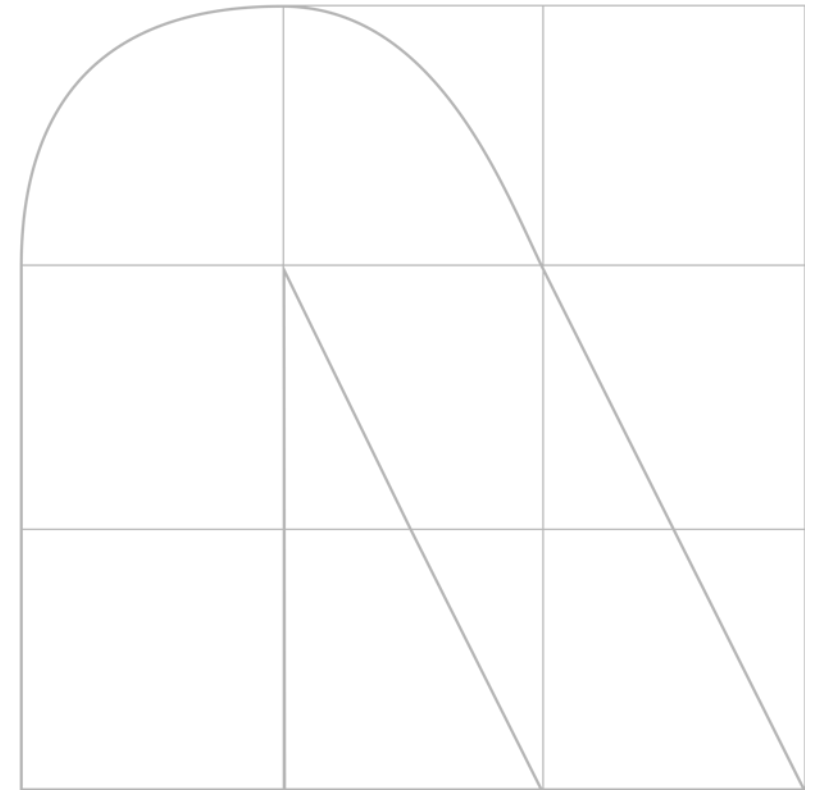
（２）地域交通における成果

- 地域交通計画策定を支援するため、今年度は計画策定に必要なオープンデータの調整・JMDS連携（図①）、およびそれらのデータを取得可能※な認証認可付きAPIの開発（図②）を実施した。



※GTFSDデータはAPIの開発はせず、JMDS内部に取り込む形で実装
© 2026 NTT DATA Japan Corporation

2.4 ユースケース② 交通安全



(1) Summary

目指す姿

- 車両の移動データや交通シミュレーションなどを活用し、道路管理者による危険箇所の特定制や細街路の整備計画を後押しする。加えて、景観や快適性にも配慮した道路の再設計を通じ、**交通安全と地域価値の向上を両立**させる。

2025年度 の計画

- オリエンタルコンサルタンツコンソーシアムと連携しながら、交通安全ユースケースの実証を推進する。
- DRMデータをはじめとした、交通安全計画の策定等に必要なデータの整備。

主な成果

- **交通安全に資する計画策定に必要なデータ提供・API連携を推進**
 - 自治体等のユーザが道路における危険箇所の把握等を簡易に行えるよう、**オリエンタルコンサルタンツコンソーシアムと連携し、必要データの提供から可視化ツールの提供までを一気通貫で実現する仕組みを検討。**
 - また、JMDSとして、**DRMデータをはじめ危険箇所把握に必要となるデータの拡充を前進し、それらのデータを取得可能な認証認可付きAPIの開発**を実施した。

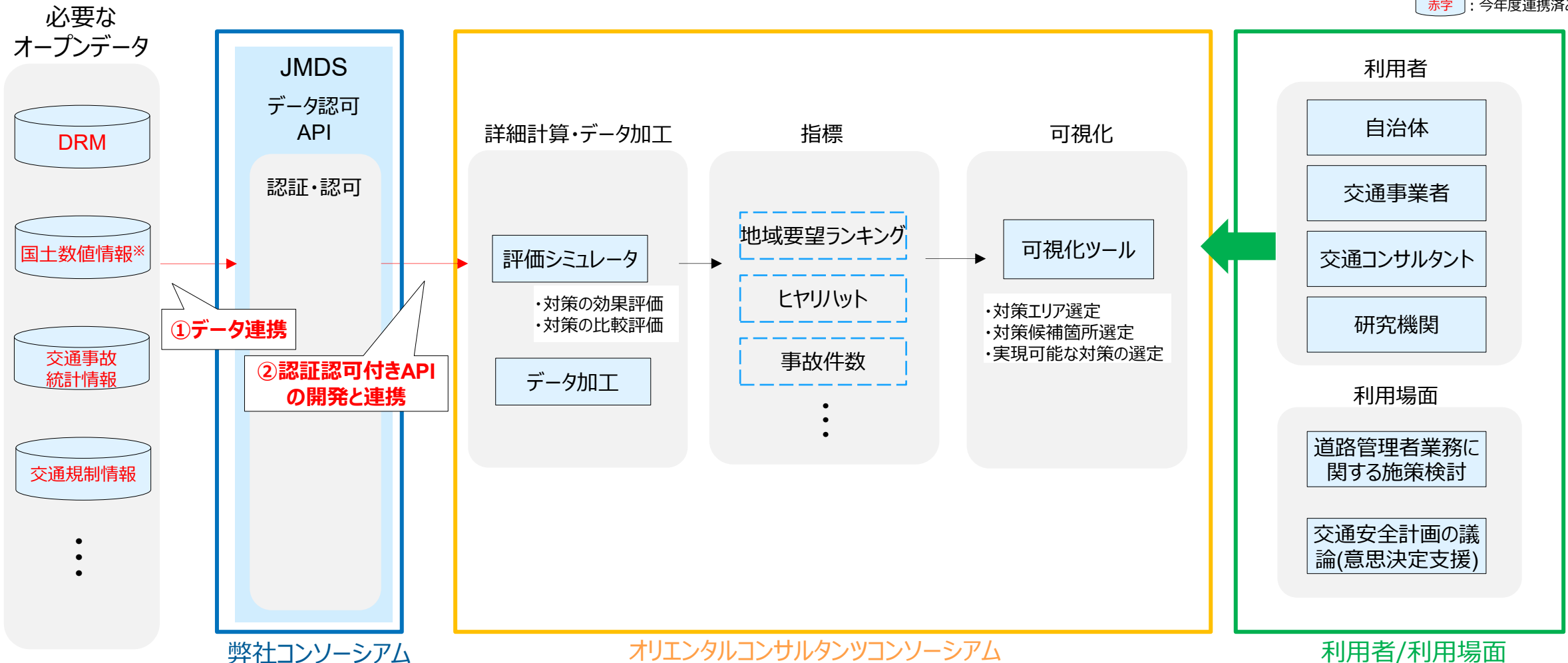
今後の 方針・展望

- 交通安全に資する計画の策定支援に必要となるデータとの継続的な交渉、連携確立
- 各コンソと連携し、交通安全に資する計画の策定支援が可能となる技術的な基盤の確立

(2) 交通安全の成果

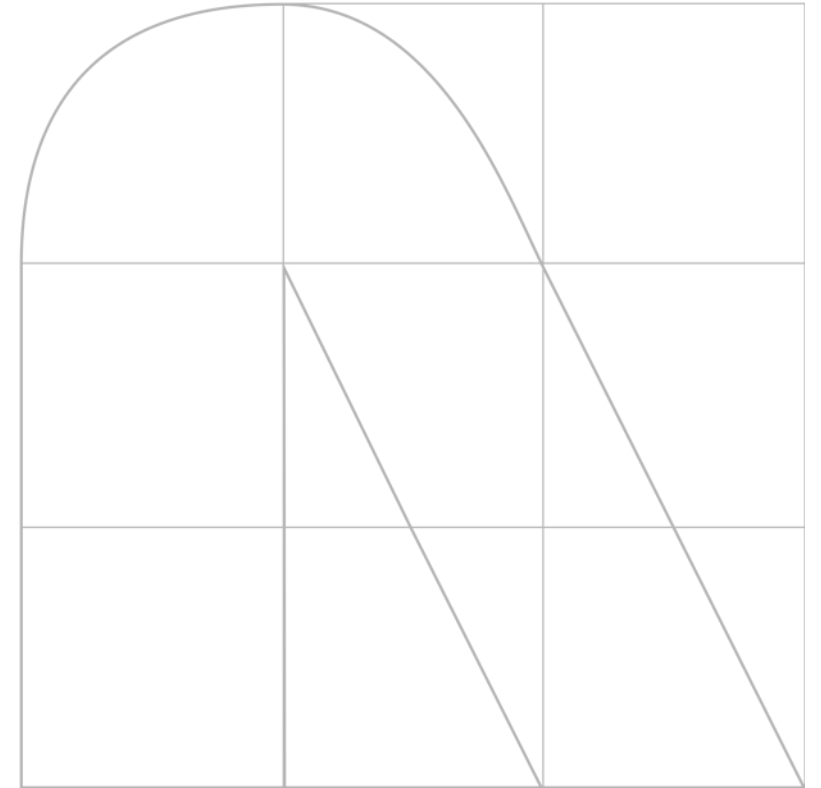
- 自治体等のユーザが、道路における危険箇所の把握などを簡易に可能とするための仕組みとして、必要となる各種データの提供から、そのデータを活用した可視化ツールの提供まで、一気通貫で実現できる仕組みをオリエンタルコンサルタンツコンソーシアムと連携し、検討。
- JMDSとして、DRMデータをはじめとし、道路における危険箇所の把握に必要なデータの拡充を前進（図①）。また、それらのデータを取得可能な認証認可付きAPIの開発（図②）を実施した。

赤字：今年度連携済み



※都市計画決定情報、人口集中地区データの連携に限る
© 2026 NTT DATA Japan Corporation

2.5 ユースケース③ 観光×地域交通



(1) Summary

目指す姿

- 観光地における移動手段不足を補完し、観光客のスムーズな周遊を促進。生活交通との分離や観光公害への配慮を通じて、地域住民との共存を図りながら、**地域消費の拡大と移動資源の最適化を実現**する。

2025年度の計画

- SSMβ版のサービス開発、および本サービスを活用したフィールドでの実証を実施し、ユースケースの創出と評価を行う。
- 実証で得た知見を整理し、他地域でも展開できる仕組みづくりを検討する。

主な成果

- **SSMを用いた観光周遊課題における実証（兵庫県洲本市）**
 - ・ 泊食分離需要に伴う「繁華街-宿泊地間」の移動課題に対し、**シャトルバスの実証運行を実施し、該当区間で延べ270名の利用を獲得**して移動需要の存在を確認した。
 - ・ **予約アプリ等のSSM機能を実サービス環境で運用**し、運行・予約の実績を蓄積するとともに、今後に向けた改善課題を整理した。
- **モビリティサービスの導入およびデータ分析による実証（埼玉県秩父市）**
 - ・ **新モビリティ(ENNE)を活用した実証を通じて、地域での利用・評価の実績を獲得**し、観光×地域交通の文脈でのサービス有効性の検証を前進させた。
 - ・ 実証結果を踏まえ、**他地域への横展開に向けたヒアリングを実施**し、導入条件・ニーズの把握を進めた。

今後の方針・展望

- 今年度実証やヒアリング結果を踏まえた、SSMサービスの改良、追加開発
- SSMおよび新モビリティサービスの社会実装に向けたサービスイメージ・ビジネスモデルの具体化

(2-1) 洲本市実証実験の課題と取組概要

- 兵庫県洲本市では、観光需要の増加が見込まれているものの、地域を周遊するための二次交通が不足。また、泊食分離のニーズが高まり、温泉街と繁華街を結ぶ移動手段の確保が求められるものの、運転手不足などもあり、夜間の公共交通も不足しているという課題がある。
- 上記の課題を踏まえ、**温泉街と繁華街を結ぶシャトルバスを導入し、2025年10月に実証を実施。**
- 弊社およびMaas Tech Japan社はSSMサービスを提供し、**シャトルバスの事前予約やタクシー配車依頼を行うための予約アプリ、およびシャトルバスの乗降場を策定する機能を提供。**

ある地域における現状・課題

とある地域では泊食分離の施策を進めているが、観光客の移動ニーズに対応できていない



解決に向けた取り組み

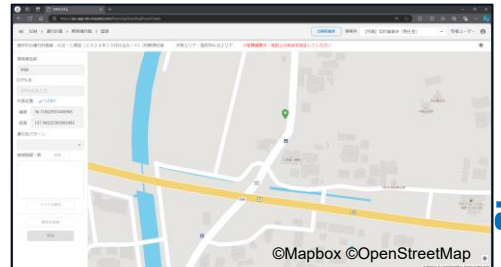
シャトルバスの導入



予約アプリの導入 (SSM機能)



乗降場の策定 (SSM機能)

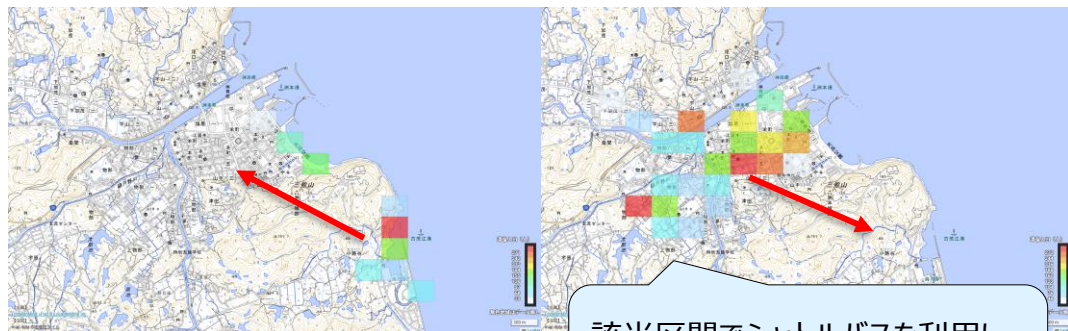


(2-2) 洲本市実証実験の成果

- 泊食分離需要の課題に対して、**該当区間で合計270名の利用者を獲得し、実際の移動需要が存在することを実績として確認**できた。
- SSMでは、**シャトルバス予約アプリと乗降場策定機能を提供**するとともに、予約・運行設計を通じて運用の成立と実績把握に寄与した。
- 結果として、需要に基づく運用計画の見直し、認知拡大、利便性向上が次の改善課題として明確化されるとともに、「今後も利用したい」という声を多く得たことで、継続利用の見込みを得た。

シャトルバス導入による実績

種別	方向	乗車人数	予約乗車人数 (乗車人数 に対する割合)	予約総件数	予約乗車件数 (予約総件数 に対する割合)
シャトルバス	温泉街⇒繁華街	153	39 (25%)	22	16 (72%)
	繁華街⇒温泉街	117	19 (16%)	13	10 (77%)
	合計	270	58 (21%)	35	26



該当区間でシャトルバスを利用し、
泊食分離需要の課題に答える

出典：RESAS 地域経済分析システム公式サイトより引用

© 2026 NTT DATA Japan Corporation

SSMを含む実証実験の評価

実証実験の評価

- ・（市担当A）昨年度まで課題だった県外来訪者の回遊について、今回回遊の実績が確認ができてよかった。
- ・（市担当A）アンケートにより、遠方からの来訪者が一定数いることが把握でき、調査として有効であった。
- ・（市担当B）今回の実証を実施することで、実データから効果や需要を把握することができた。また、他ステークホルダーとの関係値を築くことができた点が大きな効果。

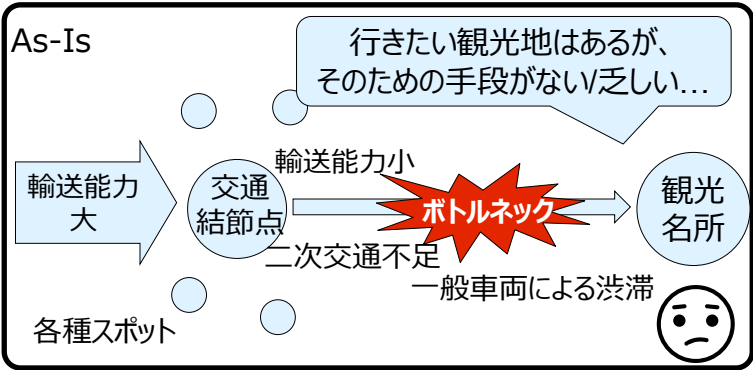
SSMサービスの評価

- ・（観光部門）SSM運航計画承認・予約アプリ共に操作性は概ね良好で、機能不足等も特になかった。
- ・（観光部門）一方で、チュートリアルや入力ガイドがあるとより使いやすく、差し戻し時に理由をコメントで送れる機能があるとよい。
- ・（観光部門）運行計画承認は、警察等を含む外部複数機関との調整・承認が必要なケースで活用してみたい。
- ・（交通事業者）操作性・見やすさ・機能充足はいずれも良好で、今回の実証では支障なく利用でき、改善希望も特になかった。
- ・（交通事業者）今後ツアー等の独自商品を事業として行う際には有用で、特に予約アプリにより利用履歴が取得できる点にメリットを感じた。
- ・（交通事業者）追加で、運行計画に時刻表やツアー時間まで組み込めるとより良い。

(2-3) 秩父市実証実験の課題と取組概要

- 埼玉県秩父市では、**観光地が点在しており、長距離移動者の需要を満たす二次交通が不足**している状況であった。
- 上記の課題を踏まえ、昨年度から分析した結果に基づき、**長距離移動に適したモビリティとして、特定小型原付(ENNE)を導入**し、立寄り場所と移動距離の分析を通じて最適な配置・導入判断の材料を得ることを目的に実証を実施。

秩父市の実態と課題

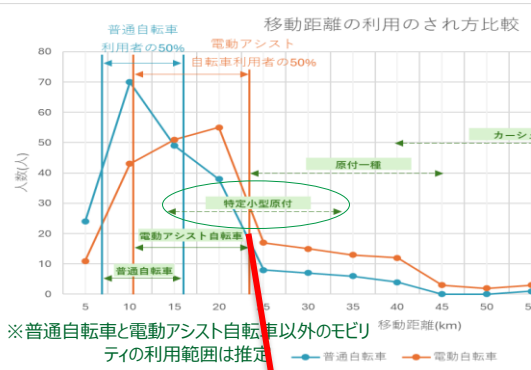


観光名所：三峰神社



観光地の点在と、移動課題の実態

課題に対する施策



出典：ENNE公式サイトより引用

長距離移動に適したモビリティ不足という課題に対する施策として、**特定小型原付(ENNE)を導入**

実証概要とスケジュール

▼実証概要

項目	内容
実証実施期間	2025年6月14日(土)～9月30日(木)
導入目的	昨年度の分析から、秩父地域においては、長距離移動者の需要を満たす二次交通が不足していることが分かったため、より手軽に長距離を移動できるモビリティを導入した。その結果を立ち寄り場所・移動距離に焦点を当てて分析し、最適なモビリティの配置および導入の判断材料とすることを目的とした。
導入モビリティ	ENNE T350Pro (4台)

▼スケジュール

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
実証全体			6/14～9/30 実証実施(ENNE運用)			
ENNE導入		導入・運用調整				
PR関連		PR				
データ分析					データ分析	

(2-4) 秩父市実証実験の成果

- 長距離移動者の需要を満たす交通手段として**ENNEを導入し、レンタサイクルと比較して、20代を除くすべての年代で長距離移動化**した。特に40代～60代の長距離化が目立っており、高年齢層の需要を満たすことを確認した。
- また、データから観光客等の移動状況を把握することで、今後の計画策定や継続的な改善への活用可能性について、前向きな意見を伺うことができた一方で、継続的な運用にはコスト的な課題がある点も挙がった。

実証結果

▼年代別平均移動距離

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代
平均移動距離	18.1km	13.9km	15.8km	18.5km	20.2km	16.7km	6.3km

▼参考：レンタサイクル結果（実証開始後）

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代
平均移動距離	8.2km	14.7km	13.9km	10.9km	8.4km	10.5km	-

レンタサイクルよりも遠方に移動



ENNEの導入により、男女ともに
レンタサイクルよりも長距離を移動し、
20代を除くすべての年代で長距離化した

実証後の評価

良かった点

- ・（観光関連団体A）データとして初めて利用の様子を見ることができた。
- ・（観光関連団体B）利用者からは、使いやすかったという声が多かった。
- ・（観光関連団体B）周知やPRに伴い、利用も広まっていた。

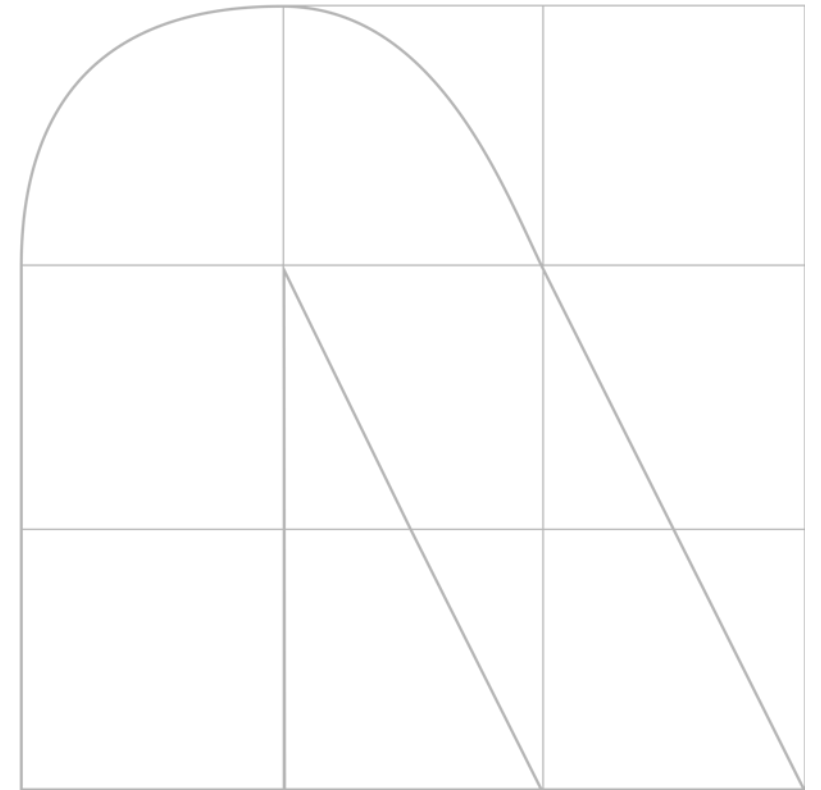
改善点

- ・（観光関連団体A）滞在の分析時、道路が含まれないように分析できれば更に良い。
- ・（観光関連団体B）1日における1台あたりの貸出回数が1回のみで、電動自転車であれば電池の入れ替えのみですぐに貸出ができるが、ENNEは同様に運用できず、もう少し利用者数を増やすことができたと思う。
- ・（観光関連団体B）次の利用者にすぐ貸し出しができるよう複数の電池があれば、さらに収益性が向上すると思われる。

今後の継続運用可能性

- ・（観光関連団体A）全体の傾向を見ることができれば、継続運用も前向きに考えられるかもしれない
- ・（観光関連団体B）（SIP）事業側から（観光関連団体B等の）団体へのサポートがあれば良い
- ・（観光関連団体B）交通・走行ルールの周知徹底が必要。（特に外国人観光客）
- ・（観光関連団体B）単独で導入するにはコスト（特に車両費）が厳しい

3. 今年度の成果物



(1) 今年度成果物（内部共有用のものも含む）（1/2）

- 今年度の研究開発における検討成果や仕様書などの内部留保・共有されている成果物は以下のとおりである。

研究開発項目	成果物一覧
研究開発項目9) 多種多様なモビリティプラットフォーム/関連データの統合・相互利活用基盤の構築、実証	JMDS実行環境（データカタログ、データセットAPI、認証基盤）
	JMDSに関する発信記事
	JMDSユーザー一覧
	JMDS社会実装計画
	JMDSビジネスモデル案
	企業・団体へのヒアリング結果一覧
研究開発項目10) 安全・快適・豊かなモビリティの実現のための、サイバー・フィジカル型道路空間デジタルシステム基盤（デジタルサンドボックス）の構築	デジタルサンドボックス実行環境（可視化ツール）
	可視化ツール操作マニュアル
	地域交通ユースケース創出に向けたアーキテクチャ図
	交通安全ユースケース創出に向けたアーキテクチャ図
	関連事業者／団体へのヒアリング結果一覧、評価結果

(1) 今年度成果物（内部共有用のものも含む）（2/2）

- 今年度の研究開発における検討成果や仕様書などの内部留保・共有されている成果物は以下のとおりである。

研究開発項目	成果物一覧
研究開発項目11) 都市 OS 上のモビリティ対応サービスの開発	二次交通データ分析結果 (埼玉県秩父市)
	二次交通利用者アンケート (埼玉県秩父市)
	実証実施計画書 (埼玉県秩父市)
	関係事業者/団体ヒアリング結果
	モビリティサービスモデル案
研究開発項目16) スタートアップ等の事業者間のモビリティデータシェア・共有が可能な基盤となる SSM（Shared Service for Mobility）の構築	SSM_機能設計書
	SSM初期システム
	SSM_実証検証計画書
	SSMデータ分析結果（兵庫県洲本市）
	SSMサービス利用者アンケート（兵庫県洲本市）
	関係事業者/団体ヒアリング結果

契約管理番号：
23201497-0

本報告書には、内閣府総合科学技術・イノベーション会議の下で推進する「戦略的イノベーション創造プログラム(SIP)第3期／スマートモビリティプラットフォームの構築」(研究推進法人：国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構) (NEDO管理番号：JPNP23023)の成果が含まれています。